

汚染沼に満つヨシキリの鳴き 声



逆井漫步③

観音寺と浅間神社の間を東に抜ける川は、生活雑排水ばかり。米のとき汁のような色となって流れている。この川は藤心で合流、大津川となつて手賀沼に注ぐ。

その河口は、やつぱり米のとき汁色をしているのだろうか。たまたま五月中旬、小中学生と家族の釣り大会(中央公民館主催)があつた。あいにくの雨の中を決行。見そびれたので、晴れ上がった同日の午後、北柏から一時間近くをかけて会場だつたヒドリ橋・大津川橋まで、にぎやかにオオヨシキリの鳴き声を聞きながら歩き、家族連れが三々五々釣り糸を垂れているのを眺めてきた。河口は広く、雨を含んだ水色は定かではない。釣り大会には二十九組が参加、コイ、フナを釣り上げ、検量して放流したという。やつぱりそうか、雑排水の川である。

手賀沼に流入する川は五つ、この大津川と北柏駅近くから流れ込む大堀川だけで五七割の流入量となる。ともに水源のない川だから、手賀沼もワースト1になるはずである。だが、それはそれ。大津川の河口の戸張は、江戸へ物資を運ぶ戸張河岸が繁盛し、大堀川の河口では呼塚河岸が成田詣での客を集めてにぎわった歴史がある。

写真は、大堀川・北柏橋近くの田んぼに移転された呼塚河岸の常夜灯、スラリと四メートル余。隣も移転組の呼塚大師堂。寄り添つて「亡びしものはなつかしきかな」の感傷を呼ぶ。